

**立花だより**  
 資本金 66億 9570万円  
 純財産額 615億 3028万円  
 (2019年3月末)  
 自己資本規制比率 661.7%  
 (2020年6月末)

# 立花月報

THE TACHIBANA GEPPU

発行所 立花証券株式会社  
 〒103-0025  
 東京都中央区日本橋茅場町1-13-14  
 発行人・石井 登 編集人・鎌田 重俊  
 電話代表番号 東京 03-3669-3111  
 ©立花証券株式会社2020  
 郵便振替口座00180-1-75762  
 購読料は1部 500円、年間 5,000円(税込)  
 毎月1回1日発行

## 相場展望

第1四半期決算をまたいだこの1カ月の株価動向は、大幅減益と減配を発表したキヤノン・シヨックを受けた一時大幅に売られたが、その後は好決算企業への物色が続き底堅く推移した。

### 景気循環

2020年4～6月期の実質GDPは、前期比年率換算で27.8%のマイナスだった。景気の循環でみると、2012年11月から始まった拡大局面は、いざなみ景気の73カ月を抜くと見られているが、2018年10月に「山」を付けていたと判定された。その結果、2019年10月の消費税率引上げは景気が山を付けた後の下降局面で実施されたことになり、そこに、今年になってコロナ禍が重なったためダメージは深刻だ。2020年4～6月が最悪の水準としても、コロナ禍の影響を差し引いて、8掛け程度の経済規模を考えなければならず、回復には相当時間がかかると思われる。

### ロビンフッター

日本株は3月に急落した後、下げ幅の9割近くまで戻している。世界の株価指数を見ると、コロナ禍や産

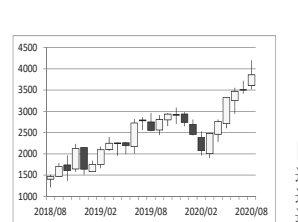
## 「8掛け経済」下の次の一手 需給面に新しい動きも

相場全体は、米中対立の過熱や米大統領選を控えて様子見姿勢が強まっている。ここから上値を迫っていくには、自律的な景気回復への道筋が見えることだ。

### 9月相場

次の一手は国民が活動して安心してできるセーフティネットを整え、併せて背中を押す景気回復策を打つことだ。躊躇すれば「二番底」も懸念される。中小型成長株やグローバルブランド企業への投資は続けながら、目先は短期勝負と割り切った売買に徹していきたい。(8月25日記 廣瀬千春)

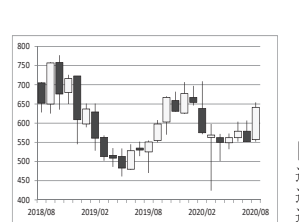
業構造の違いで騰落の差が大きいが、最も強いのが米ナスダック指数で、ハイテク株の好業績を背景に新高値を更新している。それは同時に新しい投資家層がけん引しているようにも見える。米国では今、スマホアプリで無料手数料サービスを展開するロビンフッター証券が急成長し話題を集めている。平均年齢は30歳代と若い投資家層が中心だ。ロビンフッターと呼ばれるこうした投資家は、「コロナ禍×低金利×デジタル」の新常態が生んだ新しい投資家層と捉えられている。ミレニアム世代が株式市場へ新しい影響を与えているようだ。国内でも今回の下げ局面では30～40歳代の投資家が増えていると見られている。



コード	6544	J E S H D				
(業績)	売上	営業益	経常益	利益	1株益	(配当)
連19.3	17,900	2,034	2,001	1,265	31.5	13.0
連20.3	21,339	2,717	2,703	1,700	42.1	18.0
連21.3予	23,000	3,300	3,300	2,000	49.4	20.0

エレベーターやエスカレーター1の保守・保全事業とエレベーターのリニューアル事業を手掛けている。コスト競争力や技術力が強く、独立系で国内首位。

20年4～6月期(1Q)の連結営業利益は前年同期比48%増の7.5億円と1Qとして過去最高を更新し、上期計画(13.5億円)に対する進捗率は55%に達した。リニューアル事業は前年同期にあつた消費増税前の駆け込み需要の反動で伸び悩んだものの、採算のよい保守・保全事業が拡大したことが寄与し、営業利益率は前年同期比4ポイントアップの約14%に高まった。保守・保全の新規契約件数

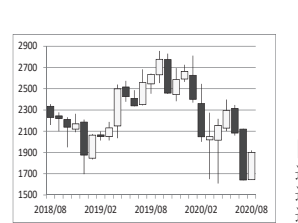


コード	1893	五洋建設				
(業績)	売上	営業益	経常益	利益	1株益	(配当)
連19.3	541,949	29,232	26,569	18,899	66.2	19.0
連20.3	573,842	33,161	32,545	23,352	81.8	24.0
連21.3予	500,000	28,500	28,000	19,200	67.3	25.0

海外ではシンガポールで工事の再開が遅延しているが、政府の指導のため追加コストについては政府の負担になる見通し。また国内では今後も設計変更工事の獲得が見込まれるほか、採算の良い海洋土木の受注が国土交通省による前倒し発注の効果で好調に推移しており、利益率の改善が続くとみられる。

今期営業利益は増額修正へ  
 今2021年3月期第1四半期の連結営業利益は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う海外工事中断の影響を、国内土木における設計変更工事の獲得による利益率の改善で補い前年同期比0.6%減の82億円とほぼ横ばい圏となった。

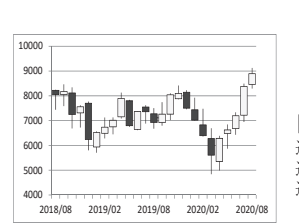
## 9月の参考銘柄



コード	7581	サイゼリヤ				
(業績)	売上	営業益	経常益	利益	1株益	(配当)
連19.8	156,527	9,599	9,731	4,980	101.5	18.0
連20.8予	131,000	▲2,700	▲2,000	▲3,000	-	18.0
連21.8予	142,000	5,400	5,900	3,000	61.1	18.0

7月から主力の「ミラノドリア」を従来の299円から1円値上げの300円(税込み価格)にするなど、多くのメニューで価格の末尾を00円か50円に切りをよくしたが、これが思わぬ顧客単価の上昇につながっている。値上げの目的は釣銭のやり取りを少なくすることで新型コロナウイルスの感染を防止することだったが、客が合計代金を計算しやすくなったことで、SNS上で「1000円ガチャ(釣銭なし)

値上げが想定外の効果  
 団体客が主体のファミリー層は収益構造上、売上がコロナ前の9割まで回復しても利益を出すのは厳しいが、同社は売上が以前の80%でも利益が出る収益構造を目指す。キャッシュレスなどこれまで注力してこなかった施策がまだあり、更なる効率アップの余地は残されていることから、今後の展開に注目したい。時価1912円(千葉明弘)



コード	6594	日本電産				
(業績)	売上	営業益	税引前利益	利益	1株益	(配当)
連19.3	1,518,320	138,620	139,014	110,798	375.8	105.0
連20.3	1,534,800	110,326	106,927	60,084	204.2	115.0
連21.3予	1,500,000	125,000	125,000	100,000	170.7	60.0

ファンモーターが好調  
 2020年4～6月期の連結営業利益はコロナ禍のなか厳しい環境だったが、前年同期比2%増の281億円を確保した。収益性の高いファンモーターの販売台数はテレワークの普及によるパソコン等の需要増を背景に四半期で過去最高を記録した。また車載部門の売上高は新規連結やEV用モーターを除く実質ベースで半減したものの、調達の見直しや内製化進展などコスト改善活動の浸透で黒字

EV向け駆動モーターシステムの採用メーカーは、中国で売れ筋のEVに採用された効果で今年4月から8社増え15社となった。会社側はEVの普及が見込まれる25年以降に向け新規開拓に注力している。3割超の高いシェアを目標として高収益事業に育成する方針。時価8806円(福永幸彦)

本号では、海洋土木の好調で今期営業利益の上振れが見込まれる五洋建設、エレベーター保守ビジネスが好調なJESHD、高収益なファンモーターが拡大中の日本電産、値上げが想定以上の効果を生んでいるサイゼリヤを紹介した。(株価は8月24日終値。業績の単位は100万円。1株益、配当は円。単は単独、連は連結決算)



4~6月期決算特集

新型コロナで厳しい環境下でも 成長目指す実力企業

＜主要業種の業績動向＞

Table with 5 columns: 業種名, 2020年4~6月期実績 (売上高, 最終損益), 2021年3月期通期予想 (売上高, 最終損益). Rows include 食品, 繊維, 紙・パルプ, 化学, 医薬品, 石油, 鉄鋼, 非鉄金属, 機械, 電気機器, 自動車・部品, 精密機器, 製造業合計, 建設, 商社, 小売業, 不動産, 鉄道・バス, 通信, サービス, 非製造業合計, 全産業合計.

(出所: 日経新聞社のデータを元に当企業調査部作成。単位%, 前年同期比、前期比増減率。2020年4~6月期実績は計1703社を集計。21年3月期通期予想は売上高と最終損益の予想を開示した計1105社が対象)

コロナ禍を チャンスに変える

大幅減益が続く

4~6月期の企業業績は純利益が前年同期比57%減と7四半期連続で減益となった。中でも製造業は全17業種中14業種が減益または赤字となり大幅に悪化した。また期初に通期予想を約6割の企業が開示できなかったのに続き、今回も35%の企業が未定としている。予想を開示した企業の通期純利益予想は前期比30%減と、今後も厳しい状況を予想しており、鉄鋼や自動車などの5業種は最終赤字を見込んでいる。新型コロナによるパンデミックは収束に向かいつつあるが、以前のような経済状況に戻るには時間がかかる。ここからは「ウイズコロナ」時代でも成長分野を取り込む企業や今後の業績立て直しが見込める企業への投資が有効になりそうだ。

東洋水産

2875 インス タントラ

1メンの中でも、単価が安く、家族で食材をアレンジして食べられる袋麺がより大幅に伸びている。今3月期第1四半期における袋麺の販売数量は国内で前年同期比4割増え、値上げ効果もあり、連結営業利益は同78.2%増の103.8億円となった。7月以降も果ごもり消費が続いており、通期の連結営業利益は会社側計画の305億円から325億円へ上振れる見込み。時価 6280円

なとり

2922 今3月 期第1四

半期の連結営業利益は前年同期比83.3%増の4.7億円となった。居酒屋など外食産業の営業自粛により宅飲み需要が拡大し、製品別売上高は「いか製品」など水産加工製品で同19%増の57億円、サラミなど畜肉加工製品で同13%増の23億

オイラ大地

3182 食品に 有機

円、チーズ類など酪農加工製品で同16%増の23億円となり、工場の生産ラインがフル稼働となっている。時価 1905円

ダイキン

6367 空調機

位級。コロナウイルスの感染拡大の防止策として換気の重要性が高まる中、住宅用では業界で唯一室内換気機能を備えたルームエアコン「うるさらX」の拡販が期待されるほか、業務用でも高機能換気設備「全熱交換器」の提案営業を進めている。会社側は今期通期の営業利益見通しについて期

住友化学

4005 今21年 3月期第

1四半期の営業利益はコロナ禍による石化市況急落などで前年同期比54%減と大幅な減益を余儀なくされたが、足元では経済活動再開に伴い石化市況の反転などが期待できる。中期的にはテスラ社製電気自動車向けにリチウムイオン電池

底打ちから 攻勢に転じる

初の1500億円から1700億円へ増額している。時価 1万9890円

たメモリ関連も復調している。時価2万7840円

9697 コロナ 禍による

貴金属の金とされるため、価格の動きは逆になることが多いが、今回はともに高値圏での推移となっている。

需要の半分を占める中国で感染収束が早まったことに加え、景気浮揚策として公共工事を増加させたことなどで建築資材用途の多い銅の実需が増加していることが背景にある。中国の製造業PMIが5カ月連続で50を上回るなど中国経済は回復基調にあり、銅価格上昇を促す格好となっている。

企業調査部 少サ一夫・メモ

金・銅価格が共に高値圏 貴金属の金と代表的な非鉄金属の銅の価格が同時に高値圏となっている。金価格はニューヨークの9年ぶりに従来の高値を更新し、8月7日に史上最高値である1トロイオンス2069ドルをつけた。また銅についてはコロナウイルス感染拡大による景気後退懸念から春先は下落したが、その後1トン16450ドル前後まで上昇している。

ドルの信用力低下 一般に世界経済の後退局面ではコモディティ商品の銅の価格は下落し、金は大幅な金融緩和策と財政出動が惹起する将来のインフレから資産を守る代表的な投資対象

6135 牧野フライ 金型向 けを得意 とする工作機械大手。コロナウイルスの感染を抑え込んだとする中国では自動車やIT関連のコネクタの生産が急回復しており、微細加工に適した放電加工機の受注が増えている。また自動化システムの引き合い

6902 デンソー 今21年 3月期第 1四半期の連結営業利益は新型コロナウイルスの影響で1066億円の赤字(前年同期は691億円の黒字)だった。通期では減収となるものの、前期にあった品質引当て費用がなくなることや、原価改善活動などの合理化などで、前期比63.7%増の1000億円が見込まれる。中期的には

7259 アイシン精機 21年 3月期第1四半期の連結営業利益は799億円の赤字(前年同期は255億円の黒字)だったが、通期の連結営業利益は前期比10.9%減の500億円と赤字幅の縮小が見込まれる。来期においては中国を中心とした自動車市場の回復や、電動車の需要増などにより連結営業利益で今期予想比42.0%増の710億円への回復が予想される。時価 3605円

当資料はサンプルであり、1、2ページのみのご提供となります。

立花月報最新号は立花証券ストックハウス証券口座ログイン後の環境よりご利用いただけます。証券口座をお持ちでない場合は以下のボタンより口座を開設してご利用ください。



## <立花証券ストックハウスのお客様へ>

### ご注意点

立花月報は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また特定の銘柄の推奨を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いいたします。

立花月報は立花証券での対面取引のお客様用に作成された資料であり、立花証券ストックハウスにおいて売買ができない銘柄を含む場合がございます。

### 手数料について

立花証券ストックハウス手数料(税込)

個別コース上限：現物取引 1,045円 / 信用取引 無料

定額コース上限：現物取引 88,000円 / 信用取引 無料

電話注文時の手数料：約定代金×0.44%(最低2,640円、上限110,000円)

### ◆ 投資に際してのご留意点等

弊社取扱商品は、商品・取引・銘柄ごと等に所定の手数料や諸経費をご負担いただく場合があります。

また、商品・取引・銘柄ごとに価格変動・金利変動・為替変動・発行体の財務状況等による損失リスクがあり、商品・取引によっては、投資元本を超える損失が生じることがあります。投資に際しては、[取扱商品](#)・[手数料](#)など各ページの記載事項や契約締結前交付書面・目論見書等をよくお読みいただき、商品・取引の仕組みやリスクなどを十分にご理解の上、ご本人の判断と責任においてお取引ください。

### お問い合わせ

立花証券ストックハウスカスタマーサービス

フリーダイヤル:0120-66-3303

携帯・PHSから:03-5652-6221

平日8:30~17:00(土・日・祝日を除く)

立花証券株式会社(金融商品取引業者)

関東財務局長(金商)第110号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会

指定紛争解決機関/苦情・紛争解決機関:特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センター(FINMAC)